

束帯して 鳴鶴を待つべし

法学部長

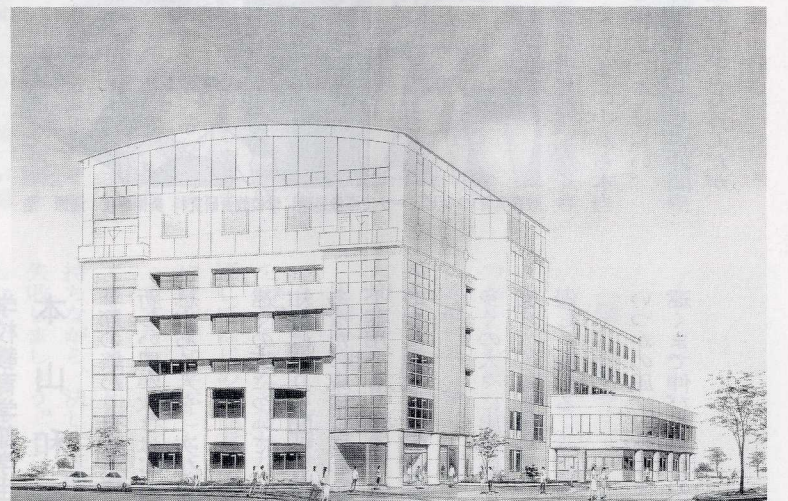
辻 秀典



入学おめでとう。
バブルがはじけてこの方、学生の顔もかわってきた。もう、願いはしなくともよいのかも知れない。これまでは、半ば諦めながら、少しは勉強を懇願してきたものだったのだが……
漫然と四年を過ごして、それでも何とか格好のついた時代は終わった。就職だけではない。眼を開いて世の中を見て見よう。日本も世界もどこに行くのか、まるでおぼつかない足取りではないか。舵取りが必要なのだ。世界を知り、日本を知り、その行く先を明確

に指し示す叡智が求められている。社会科学を学ぶ君たちへの期待は大きい。そのことを君たちは何よりも知ってほしい。

広島大学には「学部の樹」というのがある。わが学部の樹木は「しらかし」である。学部玄関前の樹は植えて間もなく、短く細く、いかにも頼りない。しかし、やがては地に深く根を張り、天に向かってそびえる樹王に育つに違いない。君たちも大いに鍛え、そのように成長してほしい。われわれも精いっぱい応援する。(つじ・ひでのり)



来年度(平成9年4月)竣工の夜間主コースの建物 東千田キャンパス

貴重な日々 — 新入生へ —

法学部第二部学生

秋田 一恵

ついでこの間入学したばかりのような気がしていたのに、本当に時の経つのは早いものだ。
この四年間、二部の学生として、仕事と勉強の両立で苦労しなかったといえば、嘘になる。だが、あえて自分で

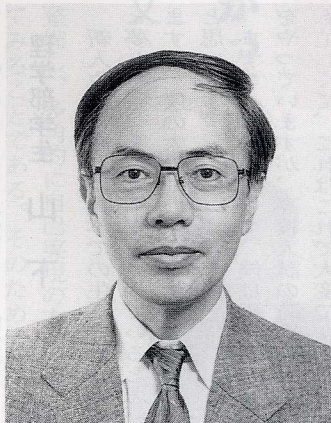


には、ピンとくることはないだろう。でも、とりあえず言えることは、今の瞬間は二度とは来ない、好きなことを思う存分やってほしい、ということである。(あきた・かずこ)

新入生に期待する

経済学部長

前川 功一



西暦二〇〇〇年三月二十五日。この日諸君は今世紀最後の卒業生となるはずである。それまでの一四六日間に学問的にも、人間的にも成長を遂げ、四年後には今年入学した諸君全員が一人も欠けることなく、二十一世紀へと巣立ってくれることを祈る。

次に、経済学を学ぶ心構えについて一言。現在、「住専の不良債権問題」が国民的関心事であることは諸君も知っているであろう。その一つ前の経済的課題は「円高」、さらに以前には「日米貿易摩擦」、「地価高騰」、「インフレ」等々であった。このように、経済のホット 이슈は目まぐるしく変わっていく。そして二〇〇〇年には、現在全く意識されていない問題が最重要課題として関心を集めるかも知れない。諸君は、それはどんな問題だと思ふか。

ところで、これらの問題や問いに対して諸君は自分なりの意見を持っているだろうか。このように問われると、受験問題を解くことに馴らされた諸君の頭脳は、たちどころに思考停止に陥るのではなからうか。試験問題と異なり、現実の経済問題に対しては、唯一の正解を求めると言うよりは、いくつかの代替的な解決策を考え、その中から最善と思われる策を選択することで良しとせざるを得ない

場合が多い。

そのために大切なことは、次々と脈絡なく起こって来るように見える経済的課題の底流にある関連性や本質を見抜くことによつて、より良い、より多くの代替案と選択肢を持つことが出来るようになるということである(ここで質問。上に挙げた経済問題の間にはどのような関連があるか)。そうなるためには、単に目前の流行テーマに関心を持つだけでは不十分で、特に若いときに経済学の理論を体系的に学ぶことが必要なのである。

最近、経済学及びそれを教える経済学部は現実問題に対して役に立たないと言う声を耳にすることがあるが、そのような意見に惑わされてはならない。問題を入力すれば、頭を使わなくてもたちどころに答が出てくるということを期待するのであれば、経済学は役に立たないかもしれない。すぐには役立たなくとも、知的労力を厭わなければ、経済学は問題の切り口と分析方法を与えてくれ、自分の頭で経済の問題を考える楽しさを教えてくれるはずである。

上の問いに、今は十分答えられないであら

う諸君が、四年後に経済学の考え方を身につけ、どのような模範解答を出すかを楽しみにしている。われわれ教師を驚愕させるような素晴らしい解答が諸君の若い頭脳から生まれることを期待したい。(まえかわ・こういち)

新入生の皆さんへ

経済学部学生

前田 孝昭

新入生の皆さん、入学おめでとう。これから始まる新しい生活に大きな期待と不安を抱いていることだろう。

皆さんは、大学での生活が始まったばかりである。ここではある程度自由が尊重され、自分の方向性を決めることができる。勉強、スポーツ、遊び、アルバイトなど時間を費やす選択肢が増え、自己管理能力を問われることになるだろう。

しかし、一つだけ言いたいことは、積極的いろいろなことにチャレンジしてほしいと言うことである。何もしなくても時間は過ぎていくわけだから、同じ時間を過ごすなら有意義に使いたい。

何が有意義であるかはそのときにはわからないかもしれないが、いろんな経験を積み重ねていくと、意味のあるものとして生きてくることがわかつてくる。さまざまな経験は、自分の財産となって人間形成に役立つであろう。また、本学部は他学部と比べ、時間的に融通

の利く学部なので、学問だけに与えられることなく幅広く物事に取り組むには好条件であるといえる。

大学生活の中で、友人の存在の大きさがわかる。一緒になって大騒ぎしたり、一晩中議論しあったり、大きな壁にぶつかったときに支えてくれたりする友人を見つけることが重要である。人はひとりでは生きていくわけはないし、生きることもできない。すばらしい友人との出会いの場として大学を活用してほしい。

大学生の本分は学問であることはわかってはいるが、それだけでは人間的には面白くない。また、四年間という長きで自分本位に生きられる時間は、今後一切ないと思う。

そういう意味で、大学生活という貴重な時間を積極的に行動し、有意義に使ってほしい。大いに学び、大いに遊び、大いに悩んでこそ、そこから自分の存在価値を見いだせるように期待している。(まえだ・たかあき)

